

めざす児童生徒像

チャ【れん】ジ  
【だい】大好き  
【じ】自分達で

チャレンジする子、最後までやり遂げる子  
”大好き”を増やす子(自分を、仲間を、学校を)  
自分達の方で、自分達をより良くしようとする子

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

目標項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
			教員	児童生徒	保護者				
(学校で設定)	めざす児童生徒像 ①～③の平均が90%以上	① おぼり強く挑戦している。	100	87.7	91.3		・様々な行事等において、目指す児童像に基づいて、めあてを確認してきたことが、目標指標の達成につながっていると考える。	・2学期の運動会、蓮小フェスタ等の大きな行事においても、めざす児童像を意識していく。また、ふり返りの活動を大切にすることで、子どもの自己肯定感の向上に努める。	
		② 大好きを判やそうとしている	100	92.6	89.7				
		③ 自分で判断行動し、自分をよりよくしようとしている	100	91.8	86.3				
		集計							
重点項目 石川県共通 働き方や業務の改善	働きの短縮 ①～②の平均が90%以上	① 6時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	88.9				①日課を変更したことや会議を精選したことにより放課後の時間にゆとりができ、目標指標の数値に近づいたと考える。 ②学校組織での役割を明確にし、各分掌で声をかけ合いながら協力して取り組んでいることが目標指標の数値に近づいたと考える。	・行事や会議等の精選するとともに、見直しを持って取り組めるようC4thの連絡掲示板を活用したり、終礼で連絡事項を確認したりすることで、共通理解を図る。	
		② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができています。	88.9						
		集計							
小松市共通重点項目	学校研究	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100				1学期に今年度の目指す授業を全員で見て、授業整理会まで実施することができた。また、単元デザインシートの提案+授業公開を1本することができ、2学期に向け一学校研究で取り組むことを共通理解することができた。 授業整理会では、児童の姿を基に授業のねらいは達成できたか、児童が主体的に学ぶことができたかについて協議することができた。	研究授業の前に指導案検討や模擬授業を行うことができなかったため、2学期以降の全体研究授業では、部会→模擬授業→研究授業の流れで、ねらいや教師の思いを共通理解して、臨んでいく。今年度は、研究授業と提案授業を兼ねて行ったが、やはり、来年度は、1学期に提案授業を1本とするという形にする。	
		② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100						
		集計							
		③ 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	100	83.7		-16.3			・全体を通して教員と児童とのアンケート結果の差が大きい。教員がどれだけ意識して場を作っていくかが大切である。 ・②③④に関しては、このような場面を設定することが少なかったと感じる。特に、③では、児童が表現したものを掲示するだけで終わってしまっている。 ・④においては、今年度より取り組んでいる「対話の時間」において、相手の話を最後まで聞くことや相手の話を否定的な反応をしないことなどを意識し、聞くことにおいては成果が見られている。しかし、相手の話を聞き合うだけになっているところがある。 ・②においては、学校研究を具現化したものであり、③や④の充実を図っていく事で②や⑤の数値も向上していくと考える。
		④ 児童生徒は、学級の友達と関わり合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	88.9	84.3		-4.6			
	⑤ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	44.9	85.4		40.5				
	⑥ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	100	79.5		-20.5				
	⑦ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	88.9	87.8		-1.1				
	⑧ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	100	94.3		-5.7				
	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	100	83.7		-16.3	・自分の考えを発表する場を教員側が意図的につくっていき、できたことを価値づけていく。 ・話し合う際の視点を児童に示す。比べながら聞くことを重点的にを行い、自分と同じのか違うのかというところが考えられるようになる。また、教師がペアやグループでお互いの話を聞き合うだけでなく、児童が自分の考えと相手の考えを併せて話すような問いをしていくことが求められる。 ・2学期の「対話の時間」においては、相手の話を受けて自分の考えを述べるような取り組みを増やしていく。 ・具体的にどのような場面を取り入れることができるのか夏季休業中の研究会全体会を通して、共通理解を図り、実践していく。	
			② 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	88.9	87.8		-1.1		
			③ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	88.9	87.8		-1.1		
			④ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	100	94.3		-5.7		
学力の向上	カリキュラム・マネジメント	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100.0				・教科横断的な視点で教育内容を実施することができた。 ・教育課程について計画、実施はできていくが評価、改善について課題がある。 ・学力調査結果の分析をもとに共通実践に取り組むことができた。家庭学習強化週間について共通実践に取り組むことができた。連小計算検定について確認できなかった。 ・課題であるローマ字について、夏休みの宿題として取り組むことができた。	・教科横断的な視点で行った授業をカリキュラムマップに書き加えることで、来年度にも活かせるようにする。 ・教育課程について反省をもとに2年度の計画をたてたり、メモを残したりしておく。 ・学力調査をうけるための共通実践について2学期末に検証を含め共有する。連小計算検定については2学期は確実実施できるように声かけをしていく。 ・ローマ字については冬休みの宿題としても取り組んでいる。	
		② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	88.9						
		③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0						
		④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	88.9						
		集計							
家庭学習	①②の平均が中間80%以上 年度末90%以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	100	83.1		-16.9	・家庭学習強化週間で、児童に計画を立てて学習しているという認識がなかったのかもしれない。う認識が声かけをして指導していく。 ・学習用端末を活用した家庭学習で、漢字の問題は、CBTタワーを活用するなど活用方法について確認し共有し、持ち帰り日についても声かけしていく。 ・水曜日を学習用端末持ち帰り日として設定しているが、徹底できない時もあった。		
		② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	77.8	75.1		-2.7			
		集計							